

授業「キャンプ実習」に関する研究(1)

—参加者の意識・行動・学習・達成レベルの基礎的検討—

中村 哲士, 保井 俊英, 會田 宏, 小柳 好生
田中 繁宏, 永戸 久美, 四元 美帆, 野老 稔
(武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科)

Research on the Lesson of “Camp training” (1)

—Fundamental Research of “Consciousness”, “Action”, “Study” and “Achievement” of Participants—

Tetsushi Nakamura, Toshihide Yasui, Hiroshi Aida, Yoshio Koyanagi
Shigehiro Tanaka, Kumi Nagato, Miho Yotsumoto, Minoru Tokoro

*Department of Health and Sports, School of Letters
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

Abstract

The purposes of this research were “construction of the exact and suitable evaluation method”, “development of the diagnostic evaluation method, the formative evaluation method and the synthetic evaluation method of having been suitable for the students” and “Accumulation of longitudinal study and cross-section study”. This research target was measuring the amount of acquisition of execution capability and instruction capability.

The results were summarized as follows:

1. Students had participated in training for acquisition of a unit and fundamental experience. The prior education for “recognition that training requires the high achievement level” was required.
2. 1) Experience was about 2 - 3 times. 2) More than students' half had technique of field cooking. 3) The adaptation capability to environment was common. 4) The degree of expectation to training was a little high. 5) Individual preparation and collective preparations were made positively. 6) Orientation and training text acted effectively. 7) There were very few amounts of preparations of “knowledge and technology” and “role and research”.
3. Experience and knowledge were not able to be increased in camp training.
4. The factor which constitutes a feeling of achievement was six, “stability, relief”, “exchange and mutual instruction”, “positive attitude and achievement avarice”, “good influence and participating volition”, “health condition”, and “adaptation in a group life”.
5. The effect in this training was accepted in the item about field activity and common activity.

緒 言

昨今、わが国においては、アウトドアスポーツの隆盛と前後しつつ、「自然とのふれあい」という言葉で欠損体験問題が論じられたり、「自然との共生」という言葉で環境教育問題が論じられるようになってきているようだ。現代社会においても、自然の教育力の大きさに異をとらえる者はいない。しかしながら、ただ自然の中に身をおいただけでは、その多くを体験し、理解・吸収することは難しいものであることも容易に推察されよう。現に、レクリエーション・ビークルと呼ばれる車で移動し、スーパー・マーケットやコンビニエンス・ストアで買い物をし、ワンタッチ式のテントやタープを建て、アルミ製折りたたみ式のテーブルや椅子を出し、カセット式のガスコンロで調理をし、電池や発電機で電源を確保し、ゴミはゴミ袋に入れて当地のゴミ箱に捨てて帰るなどと、都会での日常生活とまったく変わらない様子を屋外に持ち出し、そこでただ時を過ごすというキャンプが数多く展開されていると聞く。まず、体験するということの重要性もわかる。しかし、体験の仕方・させ方や、学習の仕方・させ方に問題はないのであろうか。また、それをだれがどこで、どのタイミングで教えてあげるのだろうか。教えてあげる立場のものは、いったいだれから学ぶのだろうか。疑問はつきないが、偉大な教育力をもつ自然に対する認識を、単なるファッションの一部程度にとどまらせることだけは、野外教育に携わる者たちの力で避けさせなければならない事象と考える。

われわれの学科は、スポーツ指導者の養成機関である。学生達は、将来、指導的立場において上述のことさらに直面する可能性が非常に高い。指導力の向上と自己の能力開発については、どのような時期や形であろうとも、実践できるような能力を身につけておかなければならない。その様な見地から、学外実習のあり方について考察するならば、ただ単に個人の体験のみを重要とした科目で終わるのではなく、学生達のもつ能力を向上させることができる授業であり、能力を向上させる方法を伝授することができる授業である必要が生じよう。そして、指導者養成としての授業「キャンプ実習」が如何にあるべきなのかを解明するためには、正確で適切な評価方法を構築し、実習生の変化を縦断的・横断的に追求する調査・研究の蓄積が必要であると判断されるのではなかろうか。

以上のことから、養成課程に存在する組織、指導者、プログラム、施設・設備、実習生に関わる質的向上の問題解決を研究の目的とする、複数年に渡る継続的な検討が必要であると考えられ、そして、それらをひもとくための具体的な研究の手段としては、その向上や達成レベルを正確に評価・分析できるような①診断的評価方法、②形成的評価方法、③総合的評価方法の3点について、本学科のキャンプ実習に最も適した形で解明されることが重要と考えた。

よって、その第一段階となる今回は、「参加者の意識・行動・学習・達成レベル」に焦点をあて、参加者の自信や指導技術・能力の向上に、現在の実習の実施方法でどの程度の貢献量があるものなのかの基礎的資料を得ることを目標として実施した。

方 法

1. 実習の概要と分析の対象

(1) 実習の概要

武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科ならびに同短期大学部健康・スポーツ学科のキャンプ実習(以下キャンプ実習)は、①自然の中で、集団的・自律的生活をすることによって自己をみつめ、真の協力・共同生活を体験する、②キャンプ生活の技術を学びつつ、生活全体の諸活動(アクティビティ)を通して自分の体力や精神力を鍛える、③将来、キャンピングの指導をする立場におかれたとき、戸惑うことなく計画立案することができ、民主的な運営指導ができるようになる²⁾という3つの目標のもと、場所を新潟県の妙高山麓笹ヶ峰キャンプ場に移し、例年7月の月上旬に4泊5日の日程で実施される(Table 1.)。本年は、7月8日から7月12日に実施された。

指導教員は本学科の専任教員8名があたり、プログラムは、各教員の指導のもと学生達が企画立案し、

Table 1 キャンプ実習の日程・日課

TIME	1日	2日		3日		4日		5日
	出発準備	起床		起床		起床		起床
7:00	学生集合	朝の集い		朝の集い		朝の集い		朝の集い
8:00	大学出発	朝食		朝食		朝食		朝食
9:00		Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ	Aグループ	Bグループ	奉仕活動
10:00			O・L 学習会	スポーツ 活動	ロープワーク ハンドクラフト	O・L 学習会		閉講式
11:00	昼食	登山 (昼食)	O・L (昼食)	昼食		O・L (昼食)	登山 (昼食)	現地出発 昼食
12:00				ロープワーク ハンドクラフト	スポーツ 活動			
13:00	現地到着			自然探索				
14:00	開講式			自由行動				
15:00	環境整備							大学到着
16:00	夕食	夕食	入浴	夕食	入浴	入浴	夕食	備品整理 解散
17:00	入浴	入浴	夕食	入浴	夕食	夕食	入浴	
18:00	オリエンテーション	星座観察		歌唱・フォークダンス		キャンプファイヤー		
19:00								
20:00	班長会議	班長会議		班長会議		班長会議		
21:00	消燈	消燈		消燈		消燈		
22:00								

あくまで相互指導が可能なように配慮されている。

(2)分析の対象

分析の対象者は、大学・短大ともに2年生で開講されている「キャンプ実習」という選択必修科目を、平成15年度に履修した131名の学生である。しかし、そのうち有効回答として今回の研究に採用したのは、欠席、無効回答を除く127名であった。

2. 調査の内容と方法

(1)調査内容

実習からもたらされる変化を測定しなかったために、調査は〔事前調査〕と〔事後調査〕の2回を計画した。〔事前調査〕は、参加直前までの個人の状態を計るもので、キャンプ実習参加に関わる基本項目と期待や自己評価に関わる項目に加え、岸ら³⁾の自然・野外活動に対する意識の研究を参考に構成した。また、〔事後調査〕は、知識・技術の獲得程度に加え、斎藤⁴⁾の研究を参考に満足感と達成感を、岸ら³⁾の研究を参考に自然・野外活動に対する意識変化を測定できるよう構成した。その概略は以下のとおりとなる。

〔事前調査〕

- 1) 参加理由と習得目標
- 2) 経験・技術と事前学習の自己評価
- 3) 自然・野外活動に対する意識

〔事後調査〕

- 1) 自信と指導力の獲得
- 2) 達成感を構成する要因
- 3) 自然・野外活動に対する意識変化

(2)調査方法

全ての調査を、集合調査方法を用いた記名方式で実施した。

記名方式は、〔事前調査〕と〔事後調査〕の記入者を一致させたかったため、学生の許可を得て、記入者本人のみが理解できる4桁の暗証番号を利用した形式で行った。

実施時期については、〔事前調査〕を実習1日目の往路の車中で、〔事後調査〕を実習5日目の復路の車中でそれぞれ実施した。

3. 分析の内容と方法

今回の研究は、「参加者の意識・行動・学習・達成レベル」に焦点をあてた実習の貢献量を計ることが目標である。従って、タイプ別などの細分化した分析を試みることは来年度以後に送り、基礎的資料の収集と実習前と後の総体的変化の分析を中心に進める。方法は、[事前調査]と[事後調査]の比較と、意識や達成感を構成する因子の抽出ということになる。

結果と考察

1. 参加理由と習得目標

実習への参加理由については、教員側が期待するようなキャンピングの知識・技術や指導力の向上といった回答は少なく、「参加料金」「単位」「友人との交流」といった、授業として考えると消極的な回答が多かった(Table 2.)。期待するプログラムでは、「野外調理」「星座観察」「キャンプファイヤー」「登山」が30%以上の回答率を得ており、都市部では体験することが困難なことから、友人とともに体験したいとする欲求傾向がうかがえた(Table 3.)。

本年度の参加学生は、単位の関係上実習参加は仕方ないが、それだったら最も参加料金の安いキャンプ実習を選択し、同じ行くなら日ごろ体験できないことを友人と目いっぱい楽しみたいとする立場をとっているようで、何かを達成したいという意欲については、事前調査からはうかがい取れなかった。

そこで、具体的にキャンプ実習に対してどのような期待と習得目標をいっているのか回答を求めることとした。期待することがらについては「思い出づくり」「楽しさの体験」「自然とのふれあい」が上位回答項目であり、「知識・技術」「指導力」については下位にランキングされた(Table 4.)。また、習得目標についても、「基本技術」「安全な方法」「共同生活のあり方」「ルール・マナー」が上位項目となり、「指導方法」「計画・実施方法」については、かなり低い回答率となった(Table 5.)。

実習事前の基本的な調査から、学生達の意識としてうかがい知れることは、キャンプ実習を何かを習得しなければならぬ授業、あるいは、自己の能力の一部を向上させなければならぬ授業などとは捉えておらず、単位取得と基本的体験という方向に赴きを置いているということであった。これ1回の実習で指導的立場に立たなければならぬケースも考えられる。もう少し達成レベルの高い実習が展開されているということを認識させるような、事前教育の必要性が強く指摘されよう。

Table 2. 参加の理由

項 目	N=127	
	%	
1. 参加料金が安い	40.16	
2. 単位の関係上	34.65	
3. 友達といきたかった	27.56	
4. キャンピングの知識や技術の向上	22.05	
5. キャンプが好き	21.26	
6. 新たな友達ができそうだった	14.96	
7. 学科の実習で安心	14.17	
8. キャンプをしたことがない	13.39	
9. キャンピングの指導力向上	7.87	
10. その他	5.51	
11. 大学教員の引率・指導	0.79	
12. 不明	0.79	

Table 3. 期待のプログラム

項 目	N=127	
	%	
1. 野外調理	40.94	
2. 星座観察	40.94	
3. キャンプファイヤー	33.07	
4. 登山	30.71	
5. テントの設営・撤収	19.69	
6. スポーツ活動	17.32	
7. ハンドクラフト	16.54	
8. ロープワーク	15.75	
9. フォークダンス	12.60	
10. オリエンテーリング	11.02	
11. 歌唱	10.24	
12. 奉仕活動	3.94	
13. その他	2.36	
14. 朝の集い	0.79	
15. 開・閉講式	0.79	
16. 不明	0.79	

Table 4. 参加の期待

項 目	N=127	
		%
1. 思い出づくり	76.38	
2. キャンプの楽しさを体験	55.91	
3. 自然とのふれあい体験	47.24	
4. キャンピングの知識・技術の習得	45.67	
5. 友達との人間関係づくり	45.67	
6. キャンピングの指導力の向上	17.32	
7. その他	1.57	
8. 不明	0.00	

Table 5. 習得目標

項 目	N=127	
		%
1. 基本的なキャンピング技術	67.72	
2. 安全なキャンピングの方法	48.03	
3. 野外における適切な共同生活のあり方	36.22	
4. 自然と共生するためのルール・マナー	33.86	
5. キャンピングの指導方法	20.47	
6. 各プログラムの計画・実施方法	10.24	
7. その他	1.57	
8. 不明	2.36	

2. 経験・技術と事前学習の自己評価

そこで、これまでにどのような経験をし、技術を有し、また、今回のキャンプ実習参加のためにどれほどの事前学習をしてきたのか回答を求めてみた。

過去の経験については、やはり学校関係の研修での経験が最も多く、ついで、近年のファミリーキャンプの流行からか、家族とのキャンプ経験という回答が多かった(Table 6.)。自己の主観によるキャンプ技術の評価では、調理することに必要な技術については、半数以上のものが持ち合わせていると判断していることが明らかとなった(Table 7.)。

本学には、全員に課せられた野外活動系の宿泊研修が存在する。そのことを加味し、小・中・高等学校、地域または家族での経験をあわせると、少なくとも1人2~3回程度のキャンプ経験があると考えても差し支えなからう。また、その回数程度のキャンプを体験していれば、野外調理に必要な基礎技術は誰しもが体得していると判断できよう。

次に、キャンプ実習に参加するにあたって、事前の準備や学習の量、オリエンテーションや要項等の有効作用、適応能力や期待はどの程度であったのかの回答を求めてみた。

個人的準備および班員との協同準備については、積極的に行われたことがうかがえ、その準備に際して、オリエンテーションや実習要項がかなり有効に作用していたこともうかがえた。反面、知識・技術や役割・研究などに関するところがらの事前の学習や準備の量は、とても少ないことが明らかとなった。また、個人の環境への適応能力については、ごく普通と判断するものが多く、直前の実習への期待度は全体的にやや高めであることが判明した(Table 8.)。

参加学生の多くは、過去の体験から、共同の精神を持ってその場に存在することが可能であり、容易に自分が楽しんでいる姿を想像することもできるといえる。しかし、これまでは与えられた体験にすぎず、

Table 6. キャンプ経験

項 目	N=127	
		%
1. 高等学校までの林間学校で経験	62.20	
2. 大学の宿泊研修で経験	60.63	
3. 家族とのキャンプ経験	37.01	
4. 初めて	10.24	
5. 地域でのキャンプ経験	10.24	
6. YMCA などでのキャンプ経験	7.09	
7. 友人とのキャンプ経験	6.30	
8. ガールスカウトでの経験	4.72	
9. その他	2.36	
10. キャンプ関係の団体に所属	0.79	
11. キャンプのリーダーを経験	0.79	
12. 不明	0.79	

Table 7. キャンプ技術

項 目	N=127	
		%
1. 飯盒(コッヘル)炊飯	66.14	
2. 野外調理	59.84	
3. マキでの火おこし	44.09	
4. 刃物の安全な使用	31.50	
5. テントの設営・撤収	22.83	
6. かまど造り	17.32	
7. 方位・距離・地図	4.72	
8. 天気図・気象予測	4.72	
9. ロープワーク	1.57	
10. 食用植物の採取と調理	1.57	
11. 不明	10.24	

Table 8. 事前の自己評価

N=127(%)

項目	5	4	3	2	1	不明
1. 準備段階における班員とのコミュニケーション	16.54	49.61	19.69	7.09	3.94	3.15
2. 個人の知識や技術に関する事前学習	0.00	7.09	29.92	36.22	23.62	3.15
3. 役割担当に関する事前の学習や準備	4.72	13.39	33.86	32.28	12.60	3.15
4. 個人的用具の準備	8.66	44.09	35.43	7.87	0.79	3.15
5. オリエンテーションや実習要項の有効作用	14.96	42.52	32.28	5.51	1.57	3.15
6. 個人の環境変化の対する適応能力	6.30	14.96	59.84	13.39	2.36	3.15
7. キャンプ実習直前の期待	24.41	21.26	34.65	13.39	3.15	3.15

※ 5=とても高次, 4=やや高次, 3=平均的, 2=やや低次, 1=とても低次

今回のように、自らが学習し与えるという経験は無かろう。本学科の立場を考えれば、学生側にももっと事前学習の仕方について享受する姿勢を求めたい。

3. 実行力と指導力の獲得

実習直後に、今回の実習で行われた各プログラムについて、自分自身が行う場合を想像したとき、その実行力と指導力に関して、どの程度の自信がついたのか自己評価してもらった。評価は、「とても自信がついた」から「まったく自信がない」までの5段階評価とし、それぞれの分析に加え、実行力と指導力の比較も行った(Table 9.)。

Table 9. 実行力と指導力の自己評価

N=127

項目	実行力		指導力		T	P
	Mean	S.D.	Mean	S.D.		
5. 野外調理	4.24	0.76	4.17	0.73	1.679	*
4. 飯盒炊飯	4.18	0.77	4.20	0.69	-0.377	
13. スポーツ活動	4.10	0.82	3.83	0.76	3.818	***
3. 火おこしとマキの組み方	4.07	0.95	3.98	0.89	1.731	*
6. 刃物(ナイフ・ナタ等)の使用	4.02	0.86	3.91	0.85	1.963	*
15. フォークダンス	3.98	0.89	3.83	0.86	2.440	**
8. 登山	3.94	1.06	3.75	0.84	2.395	**
25. 奉仕活動	3.83	0.78	3.73	0.86	1.416	
14. 歌唱	3.78	0.91	3.76	0.84	0.242	
7. 朝の集い	3.76	0.95	3.83	0.75	-1.154	
19. 方位の判定	3.76	1.04	3.54	0.97	3.046	**
9. オリエンテーリング	3.71	1.05	3.63	0.93	1.000	
2. テントの管理	3.68	0.81	3.67	0.76	0.130	
12. ハンドクラフト	3.66	0.86	3.59	0.86	1.173	
16. キャンプファイヤー	3.63	0.92	3.54	0.75	1.420	
1. テントの設営・撤収	3.57	0.85	3.46	0.90	1.822	*
21. 地図	3.52	1.05	3.25	0.98	3.592	***
11. ロープ結策法	3.50	0.92	3.47	0.94	0.419	
17. 野外ゲーム	3.39	0.84	3.28	0.74	1.824	*
18. スタンツ(寸劇)	3.38	0.93	3.27	0.83	1.661	*
24. 自然観察	3.31	0.95	3.21	0.90	1.451	
20. 距離の測定	3.20	0.97	3.13	0.95	0.929	
10. 星座観察	2.95	0.87	3.06	0.88	-1.310	
22. 天気図	2.77	0.90	2.77	0.87	0.000	
23. 気象予測	2.76	0.99	2.82	0.89	-0.942	

*:P < 0.05 **P < 0.01 ***P < 0.001

上位 10 項目とそれ以外に着目すると、明らかな違いが読み取れた。実行力・指導力ともに上位にランクされた 10 項目は同一であり、練習などを繰り返さなければ身につかないような技術が特に必要なわけではなく、過去に経験した可能性があるプログラムであった。また、平均値の差に着目してみると、指導力の評価が実行力の評価を上回ったのは、「飯盒炊飯」「朝の集い」「星座観察」「気象予測」の 4 項目であったが、有意差は認められず、その他の項目はすべて指導力の評価が下回った。有意差については、技術よりも、他人に伝えようとしたときにある程度の知識が要求される項目に出現している傾向がうかがえた。

経験量が増えれば増えるほど、実行力・指導力ともに向上していくという結果はあたりまえのように得られ、体験の重要性が示唆された。しかし、誰かを指導しようとしたときには、知識の幅が問題と解釈されているようで、体験だけではなかなか得られない知識について、いかに獲得させ指導の際の自信につなげさせるのが、現在のキャンプ実習スタイルの課題と推測された。

4. 満足感・達成感を構成する要因

満足感・達成感を構成する要因について因子分析を行ない検討した。

分析は、主因子法を用い、Kaiser の正規化を伴うバリマックス回転実施の後、因子構造を得た。因子数の決定は、基本的に因子の固有値が 1.0 以上のものとしつつ、スクリーカーブを参考に行ない、6 因子を得た (Table 10.)。因子の解釈および命名は、回転後の因子負荷量が 0.5 以上の項目に着目し、松田⁹⁾の研究を参考に行った。

第 1 因子は、38.「参加者の保健安全面に十分留意したか」、29.「参加者を平等に取り扱うことはできたか」、37.「公平で親切であったか」、40.「民主的な生活が実行されたか」、39.「担当プログラムは民主的に運営されたか」、35.「共同生活者や友人の健康に気を配れたか」、45.「キャンプソングは楽しかったか」、31.「野外活動の一般的知識を得たか」などの項目の因子負荷量が多い。因子を代表する項目内の鍵となる言葉に注目すると、「安全」「健康」「平等」「公平」「民主的」「一般」「楽しい」が浮かび上がり、友人と対等な関係で何ものにもとられることのない楽しい時間を過ごしている様子が想像される。よって、この因子を「安定と安心」と命名した。

第 2 因子は、10.「指導力は十分発揮されたか」、9.「積極的に指導しあったか」、23.「友人と仲よく生活できたか」、8.「自分の意見が友人に理解されたか」、24.「積極的に話し合いに参加して発言できたか」などの項目の因子負荷量が多い。因子を代表する項目から、友人とのコミュニケーションの深まりや広がり、お互いがよく指導しあっている様子がうかがえることから、この因子を「交流と相互指導」と命名した。

第 3 因子は、14.「積極的に協力して仕事をしたか」、19.「食事は良く食べられたか」、15.「創意工夫して、仕事をなし遂げたか」、5.「定められた規則が守られたか」などの項目の因子負荷量が多い。よって、何事も最後までやりつづけよう、あるいはやり遂げようとする積極的な取り組みの現われと解釈し、「積極性と達成欲」と命名した。

第 4 因子は、50.「機会があればまた参加したいと思うか」、49.「実習は得るところが大きかったか」、48.「日数や時期はよかったか」、3.「参加者に担当プログラムの計画を考えさせたか」、47.「野外活動は楽しかったか」、46.「これからもやりたいことが見つかったか」などの項目の因子負荷量が多い。これらは、実習に触発され、参加意欲が向上し、実施した活動を肯定的にとらえている意識の現われと解釈されることから、「触発と参加意欲」と命名した。

第 5 因子は、16.「実習中病気をしなかったか」、25.「実習期間中の健康状態はよかったか」、35.「共同生活者や友人の健康に気を配れたか」などの項目の因子負荷量が多い。明らかに健康に関する項目である。「健康状態」と命名した。

第 6 因子は、1.「グループ生活によく適応したか」の 1 項目だけの因子負荷量が多い。よって、「集団生活への適応」と命名した。

継続研究の第 1 段階ではあるが、今回の因子分析結果から、キャンプ実習における学生の満足感・達成感を構成する要因には、「安定と安心」「交流と相互指導」「積極性と達成欲」「触発と参加意欲」「健康状態」「集団生活への適応」の 6 つが存在していることを明確にすることができた。実習の成否および今後の研究のポイントをにぎる要因であることを指摘する。

Table 10. 達成感の構成因子

N=123

質問項目	F1	F2	F3	F4	F5	F6	Mean	S.D.
38. 参加者の保健安全面に十分留意したか	-0.701	0.280	-0.199	0.102	0.118	0.333	3.70	0.91
29. 参加者を平等に取り扱うことはできたか	-0.698	0.123	-0.302	0.107	0.100	0.032	3.99	0.81
37. 公平で親切であったか	-0.675	0.107	-0.147	0.274	0.163	0.182	3.93	0.82
40. 民主的な生活が実行されたか	-0.649	0.348	0.019	0.243	0.267	0.142	3.84	0.89
39. 担当プログラムは民主的に運営されたか	-0.636	0.319	-0.057	0.196	0.150	0.303	3.70	0.90
35. 共同生活者や友人の健康に気を配れたか	-0.569	0.514	-0.186	0.138	-0.746	-0.063	4.15	0.77
45. キャンプソングは楽しかったか	-0.514	0.234	-0.277	0.252	0.095	-0.011	4.27	0.84
31. 野外活動の一般的知識を得たか	-0.510	0.356	-0.285	0.090	0.320	0.032	4.08	0.75
10. 指導力は十分発揮されたか	-0.197	0.720	-0.086	0.102	0.246	0.144	3.37	0.91
9. 積極的に指導しあったか	-0.087	0.715	-0.192	0.035	0.156	0.250	3.60	0.98
23. 友人と仲よく生活できたか	-0.186	0.678	-0.241	0.068	0.214	-0.019	4.24	0.88
8. 自分の意見が友人に理解されたか	-0.211	0.638	0.009	0.101	0.245	0.257	3.45	0.96
24. 積極的に話し合いに参加し発言できたか	-0.331	0.632	-0.306	0.114	0.014	0.031	3.90	0.91
14. 積極的に協力して仕事をしたか	-0.279	0.354	-0.669	0.163	0.085	0.092	4.20	0.79
19. 食事はよく食べられたか	-0.076	0.125	-0.623	0.249	0.124	0.034	4.50	0.75
15. 創意工夫して、仕事をなし遂げたか	-0.260	0.434	-0.605	0.106	-0.017	0.162	4.18	0.84
5. 定められた規則が守られたか	-0.143	0.263	-0.535	0.032	0.296	0.162	4.07	0.85
50. 機会があればまた参加したいと思うか	-0.086	0.121	-0.071	0.798	0.149	0.038	3.38	1.21
49. 実習は得るところが大きかったか	-0.319	0.142	-0.212	0.720	0.100	0.050	4.16	0.91
48. 日数や時期はよかったか	-0.184	0.040	-0.094	0.640	0.111	0.126	3.41	1.22
3. 参加者に担当プログラムの計画を考えさせたか	-0.158	0.073	0.071	0.624	0.166	0.333	3.43	0.84
47. 野外活動は楽しかったか	-0.328	0.207	-0.309	0.598	0.210	-0.039	4.06	0.81
46. これからもやりたいことが見つかったか	-0.236	0.152	-0.292	0.539	0.089	0.041	3.75	0.88
16. 実習中病気をしなかったか	-0.115	0.031	-0.167	-0.001	0.712	-0.053	4.28	1.10
25. 実習期間中の健康状態はよかったか	-0.102	0.202	-0.120	0.145	0.629	0.050	4.06	0.98
1. グループ生活によく適応したか	-0.299	0.183	0.248	0.145	0.058	0.550	4.04	0.84
20. 参加者と接触の機会は多かったか	-0.358	0.190	-0.324	0.297	-0.006	0.389	3.74	0.90
2. 専門的な知識と技能は発揮されたか	-0.246	0.485	-0.189	0.071	0.163	0.371	3.64	0.85
21. 担当プログラムに創意工夫がなされたか	-0.356	0.343	-0.249	0.182	-0.003	0.346	3.69	0.84
12. 担当プログラムに興味と欲求は満たされたか	-0.210	0.338	-0.312	0.433	0.072	0.330	3.78	0.91
36. ハンドクラフトは楽しかったか	-0.436	0.008	-0.239	0.254	0.039	0.295	3.86	1.01
18. 責任感と義務遂行力は高かったか	-0.275	0.225	-0.385	0.197	0.348	0.288	4.09	0.80
4. 身のまわりの清潔・整頓は良く行われたか	-0.357	0.133	-0.438	-0.175	0.260	0.273	3.76	0.83
30. 担当プログラムに不安なところはなかったか	-0.480	0.177	-0.196	0.132	0.120	0.259	3.38	0.99
27. 自然観察は楽しかったか	-0.425	0.106	-0.266	0.278	0.343	0.222	3.86	0.94
6. 不平不満はなかったか	-0.146	0.396	-0.005	0.153	0.421	0.217	3.20	1.06
33. 野外活動は健康のためよかったと思うか	-0.405	0.183	-0.242	0.280	0.125	0.202	3.84	0.95
28. 協同精神の発揮はできたか	-0.467	0.312	-0.387	0.280	0.287	0.135	3.98	0.87
13. 食べ物について好き嫌いはなかったか	-0.152	0.102	-0.499	0.228	-0.026	0.132	4.05	1.08
7. 疲労しなかったか	-0.071	0.080	0.036	0.211	0.307	0.132	2.69	1.20
41. よい習慣はついたか	-0.482	0.098	-0.175	0.410	0.345	0.098	4.11	0.84
43. 諸活動は自分の身体に無理なく行えたか	-0.463	0.260	0.034	0.308	0.483	0.064	3.75	1.09
22. 共同生活者の清潔・整頓に気を配れたか	-0.329	0.340	-0.426	0.143	0.102	0.063	3.84	0.87
11. 新しい友人ができたか	-0.155	0.492	-0.267	0.161	0.006	0.056	4.27	0.83
17. ゲームやスポーツは楽しかったか	-0.385	0.135	-0.403	0.203	0.358	0.021	4.42	0.75
26. 実習中けがをしなかったか	-0.163	0.298	-0.338	0.082	0.415	-0.003	4.22	1.04
32. 恥ずかしくなかったか	-0.426	0.344	-0.379	0.197	0.168	-0.032	4.09	0.86
42. 睡眠は十分だったか	-0.337	0.115	0.018	0.243	0.291	-0.147	3.73	1.15
44. 意地悪をしなかったか	-0.426	0.195	-0.287	0.149	0.208	-0.156	4.17	0.96
34. 友人と協力することができたか	-0.314	0.493	-0.284	0.283	0.050	-0.177	4.29	0.78
2乗和	6.797	5.898	4.561	4.074	3.175	2.031		
寄与率(%)	13.59	11.80	9.12	8.15	6.35	4.06		

5. 自然・野外活動に対する意識変化

今回の実習が、自然や野外活動に対する意識にどのような影響を与えているものなのかを検討するため、岸

Table 11. 自然や野外活動に対する意識の変化

N=121

項 目	実行力		指導力		T	P
	Mean	S.D.	Mean	S.D.		
《自然について》						
1. 自然の中では気持ちが安らぐ	4.27	0.73	4.27	0.81	0.000	
2. 自然の中では楽しい気持ちになる	4.00	0.84	4.12	0.83	-1.327	
3. 自然の中は心地よい	4.26	0.77	4.24	0.79	0.215	
4. 自然は変化に富み魅力的だ	3.96	0.80	3.97	0.95	-0.083	
5. 自然は人間の力を超えた偉大なものだ	4.26	0.79	4.44	0.78	-2.070	*
6. 自然は優しい	3.61	1.01	3.51	1.14	1.053	
7. 自然は調和的だ	3.66	0.84	3.76	0.95	-0.993	
8. 自然はなくてはならない大切なものだ	4.71	0.61	4.60	0.68	1.552	
9. 自然を積極的に守っていききたい	4.36	0.66	4.42	0.80	-0.872	
10. できるだけ自然と接する機会を持つようにしたい	4.26	0.76	4.31	0.88	-0.724	
《野外活動について》(野外活動は、)						
11. 心や身体の緊張をほぐしてくれる	3.60	0.90	3.66	1.00	-0.690	
12. 未知の体験を味わう喜びや楽しみが多い	4.01	0.76	4.21	0.83	-2.308	*
13. 他人と心を通わす良い機会だ	4.07	0.78	4.37	0.75	-3.528	***
14. 自主的に考え積極的に活動する意欲をかきたてる	3.76	0.81	4.12	0.88	-4.205	***
15. チャレンジ精神やたくましい精神力を養うことができる	3.96	0.78	4.34	0.78	-5.066	***
16. 助け合い、協力し合う態度を身につけさせてくれる	4.14	0.76	4.41	0.73	-3.390	***
17. 深い感動を与えてくれる	3.86	0.89	3.98	0.94	-1.249	
18. 創造性に富んでいる	3.71	0.80	4.02	0.86	-3.861	***
19. 規律のある生活態度を身につけさせてくれる	3.71	0.81	4.20	0.81	-5.596	***
20. 自分自身を見つめ直すよい機会だ	3.65	0.91	4.18	0.85	-5.720	***
《共同活動について》(他者との協同活動は、)						
21. よろこびや楽しみを与えてくれる	3.88	0.80	4.04	0.92	-1.686	*
22. 安心感を与えてくれる	3.48	0.89	3.83	0.95	-3.542	***
23. 大きいことを成し遂げさせてくれる	3.98	0.85	4.19	0.89	-2.443	**
24. いろいろな知識や技術を得させてくれる	3.95	0.78	4.24	0.83	-2.857	**
25. 自分の力を引き出してくれる	3.60	0.87	3.94	0.92	-3.542	***
26. いろいろな考え方を学ばせてくれる	4.07	0.75	4.29	0.84	-2.340	*
27. 自分の責任や役割を自覚させてくれる	4.06	0.76	4.33	0.80	-2.928	**
28. 他者の存在のありがたみを感じさせてくれる	4.02	0.80	4.26	0.80	-2.489	**
29. ルールやマナーの大切さを実感させてくれる	4.10	0.68	4.44	0.75	-4.536	***
30. 互いの立場の理解を促してくれる	3.98	0.75	4.22	0.83	-2.894	**

*:P<0.05 **P<0.01 ***P<0.001

ら³⁾が作製した「自然活動実習アンケート」を実習の前と後に実施し、回答傾向を比較した(Table 11.)。

結果、《自然について》の質問項目では 10 項目中 1 項目に、《野外活動について》の質問項目では 10 項目中 8 項目に、《共同活動について》の質問項目では 10 項目中 10 項目に、有意な差を持った向上傾向がうかがわれ、学生達にいくつかの意識変化がもたらされていることが判明した。

現在実施されているキャンプ実習の形態は、先にも述べたとおり、学生同士の相互指導方式を随所に取り入れている。その形式の影響からか、《野外活動について》からは、自分自身と向き合い、野外活動の仕方がより自主的で積極的な方向へ変化していることがうかがえた。また、《共同活動について》からは、これまでの共同生活で得られたものとは異なったものが得られたり、変化したりしたのではないかということが推察され、自分がおかれた立場の理解や態度の好転に影響を及ぼしていることがうかがえた。これらは、キャンプ実習の実習自体の効果として捉えられよう。

一方、《自然について》からは、実習が始まるまでに、自然に対してある程度認識されていたととる結果と解釈する方法と、本実習のスタイルでは、自然に対する理解や好意に関する面への効用は期待できないととる結果と解釈する方法があり、いずれにしても判定しにくい結果となった。

まとめ

指導者養成としての授業「キャンプ実習」のあり方の解明には、正確で適切な評価方法の構築と、縦断的・横断的な調査・研究の蓄積が必要であると考え、研究目的に、養成課程に存在する組織、指導者、プログラム、施設・設備、実習生に関わる質的向上の問題解決を置き、複数年にわたる継続研究を予定した。

具体的な研究方法を、本学科に最も適した形で、正確な①診断的評価方法、②形成的評価方法、③総合的評価方法の3点を解明することを主軸とすることとし、第一段階となる今回は、参加者の実行力や指導力の向上に、現在の実習の実施方法でどの程度の貢献量があるものなのかの基礎的資料を得ることを目標とした。結果から以下のことを指摘し、まとめとする。

1. 実習を、何かを習得しなければならない授業、自己の能力の一部を向上させなければならない授業などとは捉えておらず、単位取得と基本的体験という方向に赴きを置いているということが明らかとなった。高い達成レベルが要求される実習であるという認識を持たせるような、事前教育の必要性が指摘された。
2. 経験は過去2～3回程度であり、調理程度の技術は半数以上が持ち合わせていた。個人の環境への適応能力はごく普通と判断され、直前の実習への期待度はやや高めであることが判明した。個人的・集団的準備は、積極的に行われたことがうかがえ、オリエンテーションや実習要項がかなり有効に作用していたことも明らかとなった。反面、知識・技術や役割・研究などに関する事前学習や準備の量はとても少ないのが現状であった。学生に対し事前学習の仕方について享受する姿勢が求められた。
3. 実行力・指導力ともに上位10項目は、特別な技術を必要とせず、過去の体験量に影響されやすい項目で構成された。平均値の有意差に着目すると、体験や技術に関する項目よりも、他人に伝える場合の知識が要求される項目に出現している傾向がうかがえた。体験の増量方法と知識の拡幅方法が、現在のキャンプ実習スタイルの課題と推測された。
4. 満足感・達成感を構成する要因について因子分析を行ない検討した。結果、実習の成否および今後の研究のポイントをにぎるであろう「安定と安心」「交流と相互指導」「積極性と達成欲」「触発と参加意欲」「健康状態」「集団生活への適応」の6つの要因抽出することができた。
5. 自然に関する質問10項目中1項目に、野外活動に関する質問10項目中8項目に、協同活動に関する質問10項目中10項目に、有意な差を持った向上傾向がうかがわれ、本実習における効果の存在が証明された。

文 献

- 1) 岸橋夫，自然活動入門－教養としてのアウトドアー，アイオーエム，128-131(1992)
- 2) 武庫川女子大学健康・スポーツ科学科，平成15年度キャンプ実習要項，1(2003)
- 3) 前掲1)，133(1992)
- 4) 斉藤仲次，図説野外教育，新思潮社，177-181(1976)
- 5) 松田稔，ザ・キャンパーその理論と実際－，創元社，146-152(1981)
- 6) 野間口英敏，キャンプ指導の安全と健康管理，御茶の水書房(1987)
- 7) 兼松保一，野外活動－キャンプとユース・ホステル－，ベースボール・マガジン社，(1977)